

## ユスリカとは

### 特徴

ユスリカとは、道路側溝や水路またはその付近の街灯など、集団で群れをなして発生する蚊に似た昆虫です。

都市部で最もよく見られる種類がセスジユスリカというもので、体調は5mmから10mm位、色は緑色で全体的に弱々しい感じのする昆虫で、蚊とは違い人を刺す吸血性はなく、不快害虫として各地で問題が生じ、アレルギーで悩む人も出てきています。

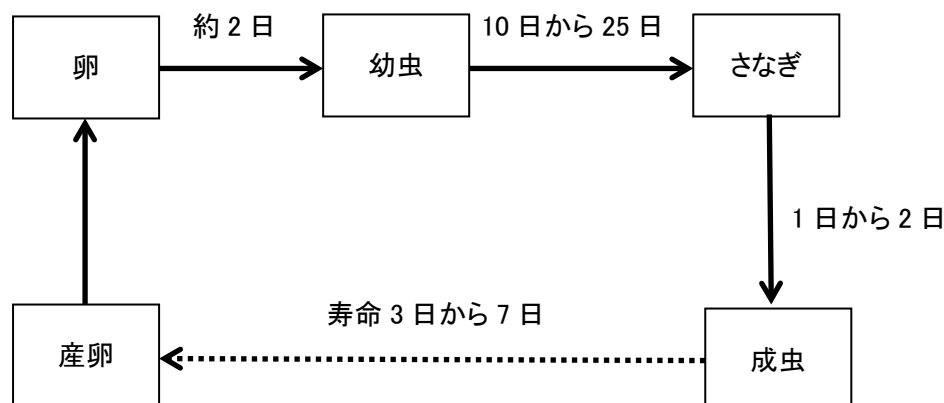
また、ユスリカの幼虫はアカムシと呼ばれ、鑑賞魚の餌や釣餌として利用されており、水域の川底で筒状の巣を作って生息しています。

### 発生時期

ユスリカの発生時期は3月頃から12月上旬頃までで、夏から秋の時期が一番多く発生します。

ユスリカの一生は下図のとおりで、これを年に7回から8回繰り返し、実際の成虫の寿命は1週間程度です。

### セスジユスリカの一生



### 発生場所

ユスリカの幼虫はほとんどが水生で、道路側溝や都市河川・下水処理場で多く生息し、水底や水中の基物上に巣を作り、水中の酸素を取り込んで生活しています。

生息できる水質としては、人手が加わり有機物が多くなった水域が多く、汚濁が進むと水中の酸素が欠乏し、浄化されていると有機物がないため生息できなくなります。

成虫は、水域の上やその付近の草むらや樹木・住宅の壁または街灯などに発生し、行動範囲は狭く水域から20mから30m、広くても100mまでの距離で発生します。

### 幼虫対策

幼虫の駆除方法としては、幼虫(アカムシ)を餌として捕食するコイやドジョウ及びヤゴを放流する方法や、

側溝を清掃し、ユスリカの巣を除去して流す方法があります。

また薬剤を一定量の水で薄め、ジョウロやバケツなどで一定時間をかけて少量ずつ水域へ流す方法や、粒剤を水域に直接散布する方法もあります。

### **成虫対策**

成虫の場合は、飛翔分散するので幼虫対策より非効率的です。

ハエ・蚊用のエアゾールや蚊取りマットなどを使用する方法や、屋内への侵入を防ぐため、網戸(20 メッシュ 0.93mm 以下のもの)を設置するなどの方法も有効です。また、証明を蛍光灯や水銀灯ではなく、白熱灯や黄色系にすることで、飛来数を減らすこともできます。

### **その他**

河川には、ユスリカの幼虫や成虫を食べる生物が存在し生態系が成り立っています。蚊のように人を刺す吸血性はありませんので、少数であればあまり気にせず駆除も必要ないと思われます。

駆除に薬剤を使用する場合は、自然環境を考慮し、適量の薬剤を使用し、散布のしすぎに注意しましょう。